

自立可能な地域経済社会の構築

—第十次自治制度研究会報告書—

平成25年4月

全 国 知 事 会

はじめに

—— 地域づくり、地域の再生に取り組まれている全国の皆様に ——

全国知事会の第十次自治制度研究会は、平成23年2月に「自立可能な地域経済社会の構築」を研究テーマに発足し、欧州の先駆的実例、地域における新たな取組状況、人材育成機能の充実や先端研究による地域振興の動き、地域金融機能の活用など、幅広い観点から事例調査などを行い、その可能性を探るための研究を2年間にわたり進めた。

この研究テーマを採り上げた背景には、1990年代以降の経済のグローバル化の進展に伴う競争激化から地場産業の衰退が進んだことや、大企業の海外進出、大都市集約化等による地域産業の空洞化から地域の雇用力が弱体化する一方、人口減少と高齢化の進展で地域の就業力が低下、地域の持続自体が困難化しているという厳しい現実がある。そして、その解決に向けて個別自治体では様々な取り組みを行っているが、地方分権が思うように進まぬ中で、むしろ国家財政の窮迫が地方財政を圧迫するなど、自立体制の確立が一層困難化し、喫緊の課題になってきているという事情がある。

こうした状況を打破し、わが国の地域経済を再生していくためには、これまでの大規模化・集約化による一極集中の大都市型経済から転換し、地域自立型経済の確立と持続可能な地域社会の構築によって経済の多極化を図ることが必要ではないか、というのが研究テーマの基本となる問題意識である。

そして、この制度研究会発足直後に「3.11 東日本大震災・福島原発事故」という未曾有の災害が発生したことは、研究会にとってこのテーマを調査することの重要性を更に高めることになった。過疎高齢化に悩んでいた東北地域が大震災からどう復興するかは、地域経済の自立という課題を凝縮して投げかけてきたからである。この緊急の地域課題について研究すべく、現地視察調査先として岩手県庁と釜石市を選んだ。被災から5ヶ月という時期であり、既存の復興制度では対応出来ない地域の能力を大きく上回る被災を目の当たりにし、大規模災害からの復興における国と地域の役割のあり方と、復興の基盤となる地域農業・漁業などの基幹産業の建て直しをどうすればよいかなどを研究した。

地域経済社会の再生のためには、わが国の東京を中心とする大都市型経済発展をいかにして地域分散型へ転換するか、経済の多極化を図る方策を探ることが重要と考え、地方公共団体、経済団体、NPO、住民などが地域で長期的展望のもと必要な地域社会基盤を再構築し、地域資源を積極活用することより自己調達による効率的な経済活動に挑戦・模索している事例を出来るだけ多くヒアリングし可能性を確認した。そして持続可能な地域経済社会の構築の方策等を探るため、先端研究、教育、福祉、医療、農業、地場産業、自然資源活用、金融等の各分野で新たな取り組みをしている事例を研究した。

さらに2年目には大分県臼杵市で地産地消、資源循環型の大規模な堆肥作りによる有

機農業と集落でグリーンツーリズムを行っている事例を視察した。就業年齢の高齢化が問題の農業に若者の参加を狙う有機農業経営と、農村地域で現役引退した人たちなど高齢者が協同で働く場を作り出している事例を視察、その意義と可能性を研究した。また、杵築市では城下町の町並み活用の取り組みを視察した。

本報告書は、2年にわたる研究会における調査研究・議論をまとめたものであるが、取りまとめに当たっては、基本的に各地域の置かれている状況・課題が異なるうえ、自立のための方策もそれぞれの特性を活かした個性あるものであるべきと考え、あえて地域経済社会自立のための制度や仕組みづくりといった統合的な政策提言をまとめることはしなかった。地域づくり、地域の再生に日々取り組まれている全国の皆様が、多様な地域、分野にわたる先端的な取り組み事例が盛り込まれた報告書を読まれて、それぞれの地域が自らの地域自立策を考える一助となることを願っている。

我々二名は委員として研究会に参加したが(皆勤賞)、毎回の研究会は神野委員長の自由闊達な議事運営とヒアリングのゲスト、現地調査先の皆様のご協力によって、和気藹々と活発な議論の応酬で、地域づくりの熱気にあふれたものであった。報告の取りまとめにあたっては、出来る限り議論のポイントをわかりやすく、熱気も含めてお伝えしたいと工夫したつもりであるが、なお不十分な点についてはご容赦いただきたい。また資料や職名、肩書きについては全て話を伺った当時のものであることを申し添える。

おわりに、全国知事会地方自治政策センターはじめ現地視察をお引き受けいただいた県・市やヒアリングにご協力いただいた方々等に深く感謝申し上げたい。

平成 25 年 3 月

第十次自治制度研究会委員

平 山 征 夫

丸 山 淑 夫